

1998年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度場をみると、北極海、北アメリカ中央部、イベリア半島の西方沖およびサハリン付近は顕著な正偏差となった。一方、スカンジナビア半島付近や中央シベリアに顕著な負偏差が見られた。日本付近は月を通して正偏差に覆われた。偏西風はチベット高原で平年より強く、北米大陸ではジェットの流れが見られた。帯状平均した偏西風は月を通して北へ張り出していた。850 hPa の流れでは、太平洋西部から中部にかけて南北両半球に対になった顕著な高気圧偏差の循環が見られ、赤道付近は東風偏差が卓越した。200 hPa 速度ポテンシャルでは、大規模な発散域は南シナ海南部に存在し、平年と比べて30度西に偏っていた。熱帯の対流活動はインド洋東部から海洋大陸にかけて平年より活発だった。一方、135°Eより東の赤道域では平年より不活発だった。SOI（南方振動指数）は+1.2（暫定値）と5か月連続して+1.0以上となった。

世界の天候

① 東アジアからインド北部にかけての高温

東アジアはほぼ全域で高温となり、中国の長春で月平均気温10.4°C（平年差+3.5°C）。

② 中国南東部から日本にかけての多雨

中国南東部や台湾では月後半に台風第10号と11号の相次ぐ襲来により、合わせて数十人の死者が報じられた。

③ マレーシアの高温

④ パキスタン・インドの多雨

インドではモンスーンの大雨やサイクロンにより、合わせて数百人の死者が報じられた。

⑤ ヨーロッパの多雨

ヨーロッパ各地で、発達した低気圧の通過による被害が報じられた。

⑥ アフリカ西部の少雨

⑦ アメリカ合衆国の多雨

合衆国西部やメキシコでは洪水や竜巻の被害が伝えられた。下旬にはハリケーン「Mitch」により、ホンジュラスなど中米諸国で数千人以上の死者が報じられた。

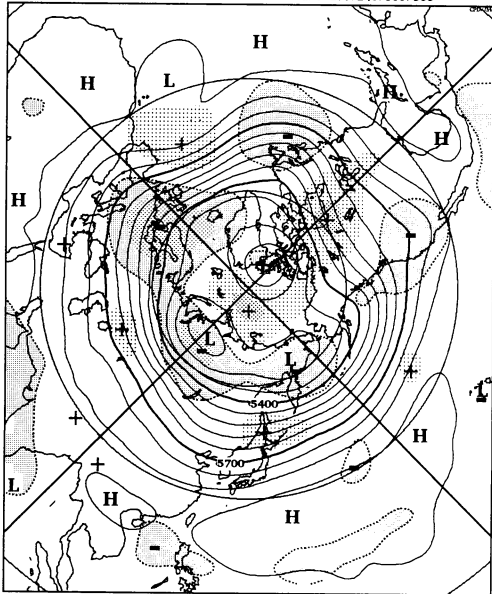
⑧ カリブ海諸国から南米北部にかけての高温

⑨ アルゼンチンの高温・少雨

⑩ オーストラリア北部からニュージーランドにかけての多雨

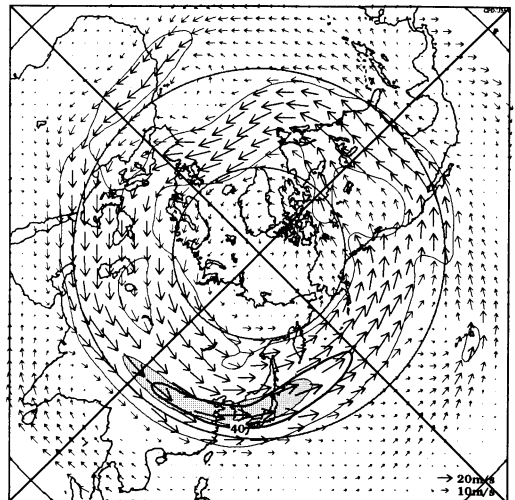
（気象庁気候・海洋気象部気候情報課 西瀧政宣）

anomalies
-300 -300 -240 -180 -120 -60 0 +60 +120 +180 +240 +300 +300 (m)



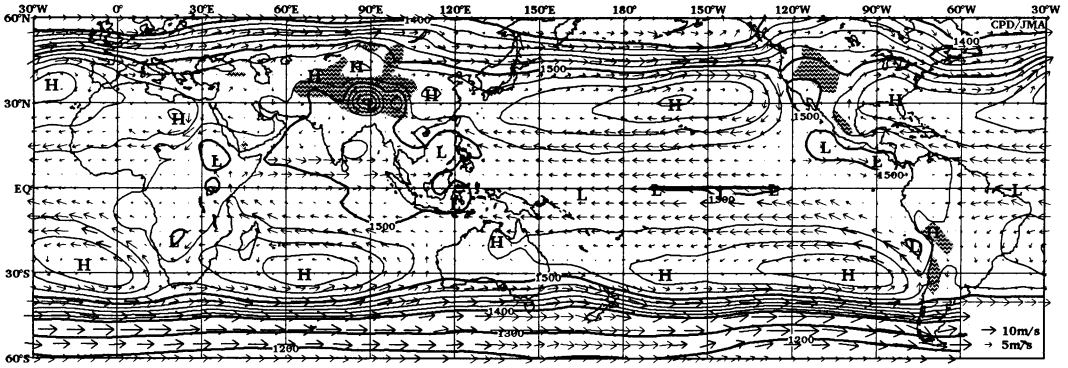
1998年10月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m、偏差パターン間隔は60 m、平年値は1961～1990年のデータに基づくもの。

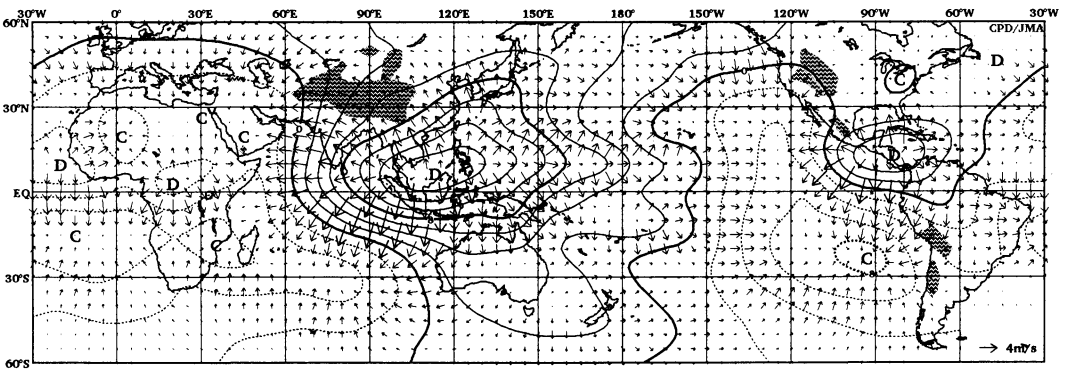


1998年10月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

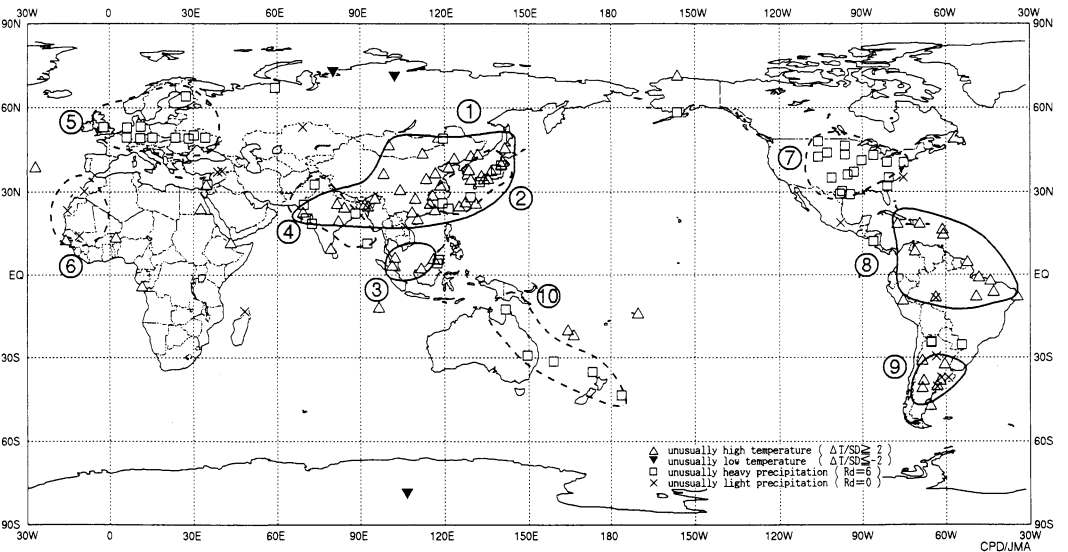
等値線間隔は20 m/s、陰影部は平年で40 m/s以上、平年値は1979～1996年のデータに基づくもの。



1998年10月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



1998年10月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1998年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.